

令和6年7月12日

輪之内町教育委員会

教育長 長屋 英人 様

外部評価員 田中 耕

令和5年度評価「輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況報告書」に対する外部評価について（報告）

貴教育委員会から提出のありました「令和5年度評価 輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況報告書」（以下「第一次評価報告書」という）及び「令和5年度 学校評価に関する考察」（以下「考察資料」という）のほか、すでに公開されている「令和5年度 輪之内町教育要覧学校要覧」、「インターネット情報」などを含めて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項に基づく外部の視点からの評価を行いましたので、その所見を下記のとおり報告します。今後の教育行政推進にご活用いただければ有り難いです。

記

1. はじめに

第一次評価報告書の第1章「点検評価結果の概要」では、点検評価の目的、方法及び結果全体の概要について、第2章「各事務事業ごとの点検評価シート」では、教育委員会の活動状況及び事務事業の執行状況について、それぞれ別紙「点検評価シート」により示されています。これらの点検評価シートのなかで、教育委員会の活動状況については「教育委員会会議等の実施状況」、「調査活動の状況等」に分けて、それぞれ「実績」、「成果と課題」及び「過去3年の自己評定」として示されています。また、事務事業の執行状況については学校教育（13領域）、社会教育（7領域）、計20領域に分けて、それぞれ「重点目標」、「成果と課題」及び「過去3年の自己評定」として示されています。

したがって、今回の外部評価においても、「点検評価結果全体の概要」、「各事務事業についての点検評価シート」に分けて、外部の視点からの意見を述べることとします。

2. 点検評価結果全体の概要

第一次評価報告書「第1章点検評価結果の概要」に示されている、「教育委員会の活動状況」では、「教育委員会会議の状況」、「調査活動の状況」ともに「順調に達成している(A)」として示されており、輪之内町の教育委員会活動が極めて順調に実施されている様子が窺えます。

また、「事務事業の執行状況」では、「A順調に達成しているもの」が16/20事業（80%）、「Bおおむね順調に達成しているもの」が4/20事業（20%）であるとされており、「C達成見込みであるが順調でないもの」、「D順調でないもの」、あるいは「－評価不能」に該当す

る事業はなかった（0%）ことが示されています。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことによって、長かったコロナ禍の閉塞感に終止符が打たれ、ようやく長いトンネルを抜け出したことによって教育活動が活発化されたことも一因になっていると推測されます。令和5年度輪之内町教育委員会の活動及び事務事業の執行が極めて順調に達成されており、満足できる結果であると判断されます。このように、全事業について達成感をもって事業を執行できたことは高く評価できます。何事も達成感をもって前向きに実施できることが事業推進にとって極めて重要であります。今後もこのような状況を継続維持して、ソフト・ハード両面で限りある教育資源を有効活用し、効率的・効果的な事務事業の推進を模索しながら、より一層の教育行政の充実を図り、輪之内町の教育水準の向上に取り組まれることを期待します。

3. 各事務事業についての点検評価シート

(1) 教育委員会の活動状況

第一次評価報告書の「第2章1教育委員会の活動状況」に示されている、教育委員会会議及び総合教育会議は輪之内町における教育施策の方向を審議決定する重要会議であります。貴教育委員会は輪之内町における学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する唯一の教育行政機関であり、教育長が具体的に事務を執行していくにあたっての重要事項や基本方針を決定してゆくため重要機関であると位置づけられます。その定例会議を毎月開催し活発に議論されていることは高く評価できます。しかし、この重要な会議への傍聴者が皆無であったことは残念です。定例会議や総合教育会議の議事日程を事前に広報し、住民への教育行政に対する関心の醸成を図ってはいかがでしょうか。事務局が役場本庁舎から離れていること、一般住民に開かれた組織になっていないことなど様々な要因が考えられますが、傍聴者の皆無要因を明らかにし、改善されることを期待します。いずれにせよ、少数の限られたスタッフながらもホームページでの議事録公開、教育委員会だよりによる広報などは地域住民への透明性、信頼性確保の現れであり高く評価します。今後も引き続き新たな課題に対応し、地方の教育を推進されることを期待します。

「調査活動の実施状況等」に示されている総会や研修会等是他町村との情報交換や好事例の発掘の機会であり、当町の改善に繋げる絶好の機会であると思われます。わが町の教育水準の向上に活かされることを期待します。

今後も引き続き定例会議や総合教育会議などの教育委員会活動によって、輪之内町教育大綱に示された基本理念に向けた施策を展開されることを期待します。

(2) 事務事業の執行状況について

○「学校教育」

学校教育の一次評価報告書では、13領域に分けてそれぞれ重点目標、成果と課題及び評価が記載されています。評価では、A,B,C,Dの4区分の評定に加えて、第一線で教育に携わっている教職員による自校評価が点数化して示されています。そのなかで、12/13領域(92%)

が「評定 A：順調に達成しているもの」、1/13 領域（8%）が「評定 B：おおむね順調に達成しているもの」であり、「評定 C、D」が無かったことは、ほぼ完璧の状態で学校教育が行われており、極めて順調に義務教育が進行できていることの表れであると考えます。教職員の教育の達成感・満足感の表れであり、このことが児童生徒にも良好に反応を示し、極めて良好な教育環境を醸成出来ていると考えます。コロナ禍から抜け出たことも一因であるとは思いますが、先生方の不断の努力の賜物であり、そのような教育環境を醸成出来ている貴教育委員会の事務管理及び執行状況の現れであると高く評価します。教育には上限がありませんので、今後もこの状態を維持向上できることを期待しています。今後は小学校での単学級が増えることが予想されますが、単学級には長短があり、そのメリットを生かした教育を進められることを期待します。

過去 7 年間の評価平均の傾向を表に示しました。コロナ禍の閉塞感からの脱出によって大きく好転したことも考えられますが、過去 7 年を通じて最も高得点を確保できたことは極めて高く評価できると考えます。教育の第一線で活躍されている先生方のご活躍に敬意を表します。

評価年度	R5 (2023)	R4 (2022)	R3 (2021)	R2 (2020)	R元 (2019)	H30 (2018)	H29 (2017)
領域	13	13	13	13	13	13	13
評価平均	83.6	78.5	82.7	75.1	76.8	78.4	76.7
評定 A/B 数	12/1	6/7	11/2	3/10	4/9	4/9	0/16

すべての領域についてのコメントは差し控えますが、学校教育のなかで最も重要な教科指導については、様々な教科の基本的な知識・能力を身につけ、児童生徒が主体的に学習できることは自分から調べ、考え、判断し、行動できるための基礎であり、次代を担い生き抜くための資質向上に欠かせないと考えます。今後も教科教育を学校教育の要として位置づけ引き続き充実強化を図られることを期待します。

特別支援教育では多様なニーズのある児童生徒への対応に苦慮されていることと思われまます。教育委員会を通じた専門職による個別指導の実施や教職員に向けた研修機会の設定など、町内の誰一人取り残さない教育体制を期待しています。

ICT 教育では視力に配慮した端末利用や情報リテラシーの確保など基礎的な指導は欠かせないと考えます。本町は IT 教育分野では先進的取り組みを行ってきたと聞いています。今後も端末を有効に使いこなし、情報化に即応した教育に期待しています。

また、近年は教職員の働き方改革として教職員が心身ともに健康で、やりがいをもって生き生きと働ける環境づくりが求められています。すべての教職員が自分の能力を十分に発揮できる環境づくり、特定の教職員に業務が偏重することのないような学校経営を進められることを期待しています。

各小中学校の考察資料では、いずれの校長先生も、町の基本理念に基づいた教育目標、学

校像を掲げ、さらに達成すべき具体的な指標（目標値）を示しながら学校経営に当たっておられる様子が見られます。それぞれの学校像から達成された成果として、多くの児童生徒から「毎日、学校へ行くのが楽しい」、「授業がよく解る」、「自分の考えを伝え合うことができた」、「先生に悩みを話すことが出来る」などの具体的な内容が示されており、教育のプロとして児童生徒の指導に第一線で当たっておられる先生方の成果の賜物であると敬意を表します。「各担任が全ての児童と面談して、不安なことやその対応を相談している。」などは教師と児童生徒との信頼のある人間関係づくりに極めて有効であり、外部評価員としても輪之内の教育への信頼性確保にも繋がり、大きく貢献できていると高く評価できます。

また、授業への ICT 活用は教科科目によって適・不適があると考えます。必ずしも全教科に ICT を利用する必要はなく、全教職員の ICT スキル向上は重要であるもの、教科特性に応じた活用を図るべきと考えます。

学校教育は次代を担う個性豊かで社会性のある若者を育てる人間形成の場所であります。したがって、その学校教育を担う教育委員会及び小中教育機関の役割は輪之内町にとって極めて重要な存在であり、町の将来にも大きく影響することとなります。

今後も継続的な評価と改善にしたがって、教育サービスの質の向上に繋がることを期待します。

○「社会教育」について

社会教育の一次評価報告書では、7 領域に分けてそれぞれ重点目標、成果と課題及び評価が記載されています。各領域の参加者の感想やアンケート、自己評価などをもとに総合的に勘案し A,B,C,D の 4 区分の評定で評価されています。

令和 5 年度は、7 領域のうち 4 領域が A 評価、3 領域が B 評価となっています。令和 4 年度までは、コロナ禍によって事業が実施できなく評定不能の領域がありましたが、令和 5 年度には幸いにも全領域で実施できています。

過去 7 年間の教科の推移を示しましたが、令和 4 年度には評定 B のみで、評定 A は皆無でしたが、令和 5 年度には半数以上を評定 A にできました。このことはコロナ禍の影響が減少したことが要因であるとする面もありますが、高く評価できます。

評価年度	R 5 (2023)	R 4 (2022)	R 3 (2021)	R 2 (2020)	R 元 (2019)	H30 (2018)	H29 (2017)
領域	7	7	7	7	7	7	7
評定 A/B 数	4/3	0/6	0/5	2/3	7/0	7/0	7/0
評定不能	0	1	2	2	0	0	0

各領域の事業は主催者、対象年齢、開催目的、開催形式、開催場所などがまちまちで、その内容も地域教育、生涯学習、芸術、伝統文化、スポーツなど多種多様になっています。これらの多様な形態の領域を横並びにして一律に評価することは困難な状況にあり、一部に

は課題のある領域もありますが、実行・検証・改善（OODAループ）などによって課題を解決されることを期待します。社会教育は青少年から大人・老人までの広範な世代を対象に行なわれる教育活動ではありますが、個々の住民の知識・教養を育てるのみでなく、地域住民の相互の情報交換や繋がりや地域防災などの課題解決にも大いに有効であると考えます。住民相互の繋がりをもつことによってソーシャルキャピタル（相互に信頼し合う人間関係）の醸成にもなり、地域住民が健康で長生きできる環境づくりになると考えます。このような住民同士のネットワークを醸成することは住民の健康水準の向上、災害や事故・犯罪が少ない地域社会の構築にもなっているとされています。今後も輪之内町の社会教育にご尽力され魅力ある町づくりに貢献いただきますよう期待しています。

4. おわりに

令和 5 年度はウィズコロナの時代に入り従来の生活スタイルが戻って来ました。普段の教育活動を復活できたを実感できる 1 年でした。このようななかで、輪之内町教育大綱にある「未来に夢と希望を持ち、生きる力を育むふるさと輪之内の教育」を基本理念のもとに、次代を担う世代に向けた学校教育や生涯を豊かに生きるための環境づくりに、日ごとから教育行政を推進する組織として努力されていることに敬意を表します。小規模自治体であっても業務内容は大規模自治体を変わらぬ広範囲な教育行政をカバーすることが求められます。したがって、本町のような小規模自治体では少人数のスタッフで効率的・効果的な地方教育行政を奨めていくことが不可欠となります。

最後に、教育サービスのより一層の向上を図り、輪之内町の基本方針である「輪之内町教育大綱」及び「輪之内町 教育の全体構想」を基本とした輪之内町の教育行政の構築及び推進に期待しています。

以上